

令和5年度 綾町立綾小学校 自己評価書

教育目標	綾愛を育てる学校を目指す。
経営理念	綾愛(綾小学校の子どもたち・教師が、一人ひとりを大切に思い行動する力)を知・徳・体・ふるさと教育・特別支援教育の分野から育てていく。

4段階評価【4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する】

本年度の重点目標	努力事項及び具体的取組	評価項目	自己評価			結果の考察・分析及び改善策	学校運営協議会の評価	
			職員	保護者	児童		評価	意見等
分かる、できるの実現と基礎学力の向上	1 実態分析及びICT活用 ICTを効果的に活用した指導を工夫する。	ICTを活用し、一人一人の実態に応じた指導の工夫をしている。	3.6	3.0	3.4	夏季研修等で、各種学力調査から児童の実態を把握・分析し、対策を考える時間を設定している。児童用タブレットの活用を積極的に行ってきた。保護者・児童の自己評価が、3.0以上で、ある程度学習への自信が感じられるため、今後も、様々な手立てをさらに充実させていきたいと考えている。	3.6	ICTの活用がこれからは、普通になるのですね、他の学校にも遅れをとられないように、よろしくお願います。児童を真正面から向き合った授業を第一に、ICTを効果的に活用した指導もプラスして、児童の学力向上に努めてほしい。ICT活用については素晴らしい。職員と保護者に差がある。学校の取組を見える化してほしい。調査結果を分析し、対策を立て、その対策がうまくいっているかを定期的に振り返りながら対策の細かな調整ができる時間も設定されているのでしょうか。ICTを活用した学習が増え、大変素晴らしいと思う。手間や時間の面を考慮しても、十分な学習効果があると思う。
	2 授業改善 「めあて」と「まどめ」の整合性と習熟を意識した授業づくりを行う。	児童の学習意欲を高める工夫をしている。	3.4	3.0	3.4	初期研修や校内OJTを通して、互いの授業を見合う機会をとるようすることで、授業の工夫・改善を行ってきた。授業の中で「学習内容の定着を回す時間」を取り入れることを共通実践すること、火曜日の「まどめの時間」での習熟の時間を確保すること、を取り組んできた。	3.1	授業改善については工夫されている。「命を守る教育」はあらゆる機会を見だし、学校・家庭・地域が連携を強化していく必要がある。PTAなどの意見を聞き取りたい。お互いの授業を見合い学び合う取組はとも良いと思います。お互いの授業を見合う機会を取り入れたこと、大変素晴らしいと思います。技術的な面だけでなく精神面でも安定されたいと思います。
	3 読書活動の推進 読書の力向上のための、読書活動の推進に努める。	読書習慣の定着を図るため、各児童へ学期ごとの目標を設定させている。	3.0	2.3	2.6	毎月一回の「読書の日」の取組を通して、家庭との連携を回った読書推奨を行ってきた。また、積極的な図書室利用を推奨してきた。金曜日には、1・2年生に地域ボランティアの方の「読み聞かせ」を実施し、本に対する興味関心を高めていくことができた。しかし、家庭でも進んで読書をしているか、ということに関しては、全体的に評価が低く、特に保護者は家庭での読書が十分ではないと感じている傾向にある。	2.8	読書の推奨をさらに力を入れていってほしいです。読書週間の定着を図るため、家庭との連携推進は、今後とも大切である。今後期待したいと思います。生徒達の読書がますます増え、家庭を含めた環境作りが大切だと思う。家庭において子どもが読書の時間を持つかどうかは、保護者の読書週間とも関係が深いように思いますが、...家庭での読書が十分でないと感じる保護者にとって十分とは、どういった状態でしょうか?地域ボランティアの方々へ感謝です。生徒さんらしい習い事があつたり、ご家族の方の帰宅が遅かったり家庭環境も様々で大変だと思います。
生徒指導の徹底を通して豊かな人間性の育成	1 命を守る教育 自分を愛(大切に思い行動)するために、まず、「自分の命は自分で守る。」ことを指導する。	自分の命を守る。大切にすることや自尊感情や自己肯定感(「自分には良いところがある」と感じていること)及び他者を思いやる心を育成するための指導を行っている。	3.4	3.1	3.6	日常における安全指導や避難訓練、保護者や地域の協力による見守りや夜間指導を行っていることによる評価で、特に、児童の評価からは「命を守る」ことについて、日頃から意識していることがうかがえる。今後、家庭においても「命を守る教育」について、どのようなことができるのかPTAと共に考えていより効果的である。	3.3	学校だけでなく、家庭での教育も大事だと思う。まず、保護者の教育も必要ですね。「命を守る教育」はあらゆる機会を見だし、学校・家庭・地域が連携を強化していく必要がある。PTAなどの意見を聞き取りたい。日頃からの命を大切にしてほしい。物・時間大切に個人の取り組み方で常に意識している自然に身につくと思う。「自分の命は自分で守る」は、あらゆる場面で、子どもに接する大人が意識し、子どもに伝えていけると良い。熊鷹半島地震のことをきっかけに、これからは防災意識も高くなっていると思います。
	2 基本的な生活習慣の徹底 基本的な生活習慣の徹底のため、あいさつ運動を推進する。	日常的に、交通ルールや学校のまわりを守るなどの規範意識を高める指導を行っている。	3.5	3.0	3.3	学校において、あいさつを含め、規範意識を高める指導を行っており、児童のあいさつも良くなっていると感じる。しかし、地域でのあいさつ・家庭でのあいさつがもう少し少なくなっている。今後、保護者や地域との連携も回りながら、あいさつをさらに向上させ、規範意識の高い児童を育てたい。	2.9	まずは大人、保護者が率先してあいさつしていかなければいけません。あいさつ運動へ向け、町全体でスローガン等を掲げ、明るく元気な町作り而努力していけたらいい。今後、期待したいと思います。交通指導しながら私も頑張っています。地域や家庭でのあいさつは、まず大人から見せたいところなので、連携を図ることはとても大切だと思う。公園でのあいさつはあまり良くない。学校にならぬあいさつをいふ子が自立つ。公園などに遊びに行くのはいいが、自分の出したごみは必ず持ち帰してほしい。
	3 道徳科を中心とした豊かな人間性の醸成 認め、褒め、支え、贈え、道徳科の授業を充実させる。	考え、議論する道徳科の授業実践に取り組んでいる。	2.8	3.3	3.0	「保護者・児童の「思いやり」の心を育て接している」ことに対しある程度評価されている。日常の様子からも思いやりのある言動が多く見られる。教職員が評価した道徳科の授業に焦点を当ててみて、議論しあう活動が十分とは言えないという結果であった。豊かな人間性育成のために、自分の考えを深め、互いの違いを認め合えるような授業を構築していきたい。	3.1	人を助け助け合える子ども達が増えてほしいですね。思いやりのある言動は、大人から子ども一人一人が大切にされたいまでも見守られることから生まれる部分も大きいと思う。また、日本の教員同士の思い遣りのあるやり取りを見学ぶ部分もあると思う。思いやりが身につくまで時間が必要である。先生達の気の長い指導を頑張ってください。思いやりのあるやさしい児童の育成を今後とも学校と連携して取り組んでいきたい。
健康安全教育の徹底を通して体力の向上	1 積極的に運動に取り組もうとする意識の向上 効果的な柔軟運動を教科体育の時間に取り入れ、工夫している。	教科体育での体力テストを意識した運動の実施や、運動の習慣化を図る指導を工夫している。	3.1	3.1	3.4	ストレッチの時間を設け、柔軟性を高めていくことができた。また、日々の体育指導の充実を図るため、学年間での情報交換を行ったり、体育の授業を共同で行ったりしながら、授業の充実を図ることができた。保護者・児童の自己評価も3.0以上であった。さらに、情報発信にも努め、体力の向上にもつなげていきたい。	3.1	普段のかが防止のためにも、体を柔らかくするのは大事ですね。ストレッチの時間は、教科体育の時間以外も集中が切れきたり大きな柔軟に取り入れてもいいかも、...と思う。身体を動かさず、脳がフレッシュできれば、再び集中状態になる。自己体力も低下しているようです。特に持続性が低い。ストレッチの時間、たいへん良いと思います。
	2 給食指導を中心とした食育の充実 栄養教諭による食育指導を全学年で計画的に実施する。	栄養教諭と連携を回り、日常的な給食指導を通して、食に関する指導を年1回以上計画的に行っている。	3.6	2.9	3.2	オーガニック給食で練りたてはの特色のあるメニューを取り入れ、児童が食に興味を持つとともに、郷土への思いを深められるようにしてきた。また、栄養教諭による食育を実施したり、「JA綾町の米づくり体験」などの、外部講師と連携した指導を取り入れられている。給食時に食材や生産者について、校内放送や掲示板で紹介するなど、啓発に力を入れている。今後も継続していきたい。	3.3	すばらしい学校給食を企画、提供していただきありがとうございます。子供達もおいしいと太鼓判です。保護者の評価が低いのは、保護者への宣伝不足でしょうか?午前5時間授業とも関係しますが、給食を食べない児童はどのくらいいるのでしょうか?食の大切さ、また食品ロス等も理解できているようである。生産者との生の意見交換、一緒に給食を食べることは実施されていますか?努力が認められます。郷土の料理が継業を育むということは大変素晴らしいこと。ただ、食材も高騰しているのでコスト面の工夫が大変だと思います。
	3 健康意識の向上 健康を意識した生活習慣力向上を図る。	健康を意識した生活習慣力向上を図るための指導を行っている。	3.4	3.2	3.1	保健学習や学級活動などにおいて、「清潔にしよう」「歯や目を大切にしよう」「病気やけがの予防」などの題材で、全学年取り組んでいる。また、保護者と教職員対象に、学校保健委員会を実施している。今後も家庭での協力が不可欠であるので、保護者への啓発を図りつつ児童の生活習慣力向上に努めたい。	3.1	インフルエンザ・コロナ収束中であるが、油断はできないので、引き続き手洗い・うがいは徹底ですね。今後、継続をお願いします。
個の特性に応じた特別支援教育の充実	1 特別支援教育に関する理解の促進 特別支援教育に関する理解を促進するため、研修会を計画的に実施し、保護者への情報発信を行う。	特別支援教育の視点から、対象児童に対して、巡回相談を活用したり、日常生活における配慮をしたりしている。	3.4	3.0		校内において児童理解につながる研修を実施し、共通理解の場を多くもった。また、支援対象児童に対し、定期的な巡回相談やスクールカウンセラーを活用し、保護者と外部機関との連携も回った。職員の評価と比べ保護者の評価がやや低いので、保護者向けに発行している特別支援教育「あおぞら通信」に、学校内部の取組が見える化した内容も盛り込んでいきたい。	3.2	他の生徒以上に先生の気苦労がたかさんだと思えますが、頑張ってもらいたいと思います。「あおぞら通信」を発行されているのは、素晴らしいと思います。1回の研修以上に定期的な発信は効果があると感じます。ただ、保護者は、どのくらいの割合で発行物を目を渡されているのでしょうか。生徒に合った指導を継続的にお願いします。学校と連携し、児童の様子について情報交換を思いやうたい。先生方が懸念されているおかげです。学校に限らず、練り全体からの体制を見直すべき時が来たと思う。手厚い支援が必要。
	2 関係機関と連携・協働した教育活動の充実 ユネスコエコパークである綾町として、地域のひと・もの、ことを活用した活動を実施し、概念的な知識を得られる活動となるよう全職員で取り組んでいく。	ふるさと綾を語る活動【綾について学ぶこと(テキスト・体験)、綾のよさ・課題、ふるさとのために今できること】を取り入れ、語ることで指導を行っている。	3.1		2.9	総合的な学習の時間や生活科において、ユネスコエコパークや環境、JA青年部など、地域の力を活用した取組が十分なされた。幼稚園から中学校までのキャリア教育としての体験活動も、十分に味わっていると考える。今後、インフラだけでなく緑の整備などを見つけて、その素晴らしいことを伝えたりするアウトプットの活動も取り入れ、ふるさとに貢献できる人材の育成を図りたい。	3.1	綾しかないこの環境を十分活用して町ぐるみでたくさん綾つを育ててもらいたいです。進捗のことも関係しますが、相手の意見、考えを受け入れるから自分の学習成果を自分のことばで発信(語る)値からは、社会に出てからも大切な力だと思います。語る力の育みはぜひ頑張ってください。現在、過去の体験者より実技指導の継続を願う(高齢者から早く学んでほしい)努力が認められます。充実した総合的な学習の時間だと思います。綾を知り、綾に住んでいる人を知り、綾で働く人を知り、他にはない綾小学校独自の体験活動で、大変素晴らしいと思います。
PTA活動の充実	各家庭の負担感に配慮した合理的な活動の充実とその他「協力いただける任意の会の参加を推進 家庭環境に配慮した一人一役の設定と1学期当初の懇談会で役員決めの時間短縮に取り組んでいく。				一人一役ではあるが、「できるときに参加!できるだけ参加!」を周知をし、スタートした。懇談会での役員決めも、あらかじめ希望調査を行っていたことにより、スムーズに決定した。コロナ禍が明けたので、保護者役員が主体になり実施している活動も増えた。(家庭教育学級等の研修や視察)次年度に向け、負担を減らしつつも充実した内容にするため、業務分けを行い、システム化を図っていく予定である。	3.5	役員決めも、みなさん率先して決めていただき、PTA活動にも協力的でとても助かりました。一人一役「できるときに参加!できるだけ参加!」はとても素敵なスローガンだと思います。どんな場合でも「できるときにできること」を大切に	